

野毛の山から異人館を見れば
(神奈川県で一番低い山登山の記)

♪ 野毛の山からノーエ 野毛の山からノーエ 野毛のサイサイ 山から異人館を見れば ♪

東京の人には馴染みは少ないかもしれないが、日本の流行歌のルーツとも言われる「ノーエ節」の一節。日本山名事典を本棚に置き、退屈な時にはパラパラとめくって見ている。ある日面白いデータに出くわした。「各都道府県で一番低い山の一覧表」、これを見ている内に日本で一番低い山に登って見たくなり、平成 23 年 5 月に登頂(?)して来た。その時の記録は「ふたたび大阪の旅」(2011 年 7 月)で紹介した。一覧表を見ているとそこかしこへと行ってみたいとなり、「神奈川県で一番低い山」に出向くことにした。神奈川県で一番低い山は「野毛山(のげやま)」、海拔 47.4m。

平成 24 年 3 月 6 日、7 時 59 分発の高速バス「ちばきたライナー」で東京駅へ。雨のしかも平日の通勤時間帯のため若干遅れ気味だったが、それでも 9 時 10 分頃に東京駅に到着。通勤ラッシュの混雑を避けて東海道線の下り列車に乗車。9 時 21 分発伊東行、これまた遅れて 9 時 28 分を過ぎた頃に発車。

横浜駅で時計を見たらちょうど 10 時だった。

京浜急行に乗り換えて、日ノ出町駅に降りたらちょうど雨が止んだ。

左手に野毛山を見ながら横浜根岸道路を北へ進み野毛坂交差点を左折すると登山が始まった。かなりの傾斜の道を登って行くとすぐに左折し、野毛山の腹を巻くように登る道(これが野毛坂)になった。

右手は山、左手は下界に広がる横浜の町。

さらに緩やかに登って、ほぼ 8 割がた登ったと思われる頃、目の前に交番が現れた。交番の角を左折してしばらく進むと、横浜市水道局の門扉とその中に立つ古めかしい建物が目に入ってきた。後に分かったことだが、日本で初めて水道が引かれたことを記念する掲示等もあり、この辺りはこの街の歴史を語る場所らしい。

25,000 分の一の地形図を片手に持ち注意深く右手の公園の中に入った。

まずは野毛山の全景を掴む目的で、広い頂上の隅から隅まで歩きまわって見た。そして地形図を見ながら、ここと思われる場所をさらに注意深く、注意深く……。

植え込みの中に割れたコンクリートの蓋を発見して足が止まった。なにやら文字が見えるではないか。ズボンが濡れるのも構わず植え込みに入って見ると、コンクリートの蓋には「三等三角点」と刻まれていた。荷物(ザック)とカメラを木の根の張り出しの上に置いて、やや重めの蓋を開けて見た。蓋の中は雨水が溜まって満水の状態で、中央部に大理石の石柱が水没しているのが見えた。

海拔 47.4m 三等三角点「野毛山」は、こんなところに、こんな形で残っていた。

見上げるとかすかに青空がのぞき始め、高層ビルが上部を霞の中に入っ込んで立っているのが見え、下界には、大岡川に沿って扇のように広がる町とその先に広がる港が見えた。

「野毛の山から異人館が見えた」という昔の景色を想像しながら、しばし眺めに浸った。

無事登頂のあとで野毛山動物園(入場無料)を覗き、中華街で古い山の友と昼食。昼食の後にはぎわい座で落語を楽しみ、何人かの友人と野毛の裏通りで酒と愉快的雑談。愉快的山登りの一日だった。

以上

